



学校だより



5月号

<http://www2.kobe-c.ed.jp/hhr-es/>

「校歌にこめられた思い」を大切に

木々の新芽が、柔らかな緑を装い、さわやかな風に揺れています。新学期が始まって1ヶ月を迎えようとしている今日、朝、交差点に立っていますと、「おはようございます」の大きな声が響きます。笑顔いっぱいにかわす挨拶は、最高のプレゼントで、私の心まで元気になります。「おはよう」という言葉一つが、こんなにも相手に元気を与えるということを実感する瞬間です。また、朝の会には、ときわ校舎、さくら校舎の各教室から元気いっぱいの挨拶が運動場に響き渡っています。今日も一日のいいスタートが切れたとうれしくなります。挨拶は朝だけではありません。給食室に給食を取りにくる給食当番も、調理士さんに感謝の気持ちを伝えます。そんな子供たちの姿を見ていると、どの学年も張り切っている様子がうかがえます。それだけに、5月は、疲れの出る時期でもあります。このゴールデンウィークには、心身ともに休養させてあげてください。

さて、現在、やなぎ校舎に掲げられた「おめでとう 100周年 ありがとう 平野小」の横断幕は、毎日、子供たちを見守ってくれています。今年度が平野小学校最後の年ということで、今年一年は、子供たちとともに、平野小学校や平野の街について考えてみたいと思っています。そのはじめとして取り上げたのが、「校歌」です。「校歌」について調べてみますと、創設当時の方々の学校への大きな期待と誇りがうかがえました。「港神戸の要となる誇らしい学校に」と歌われた1番に始まり、「偉大な楠公さんをお手本として立派な校風を」の2番、「道しるべとなっていた一本松のように、世の中の人々のお手本となる学校に」の3番、そして、「清盛公のような強い意志を見習って立派な人に、立派な学校に」と締めくくる4番。100年の歴史を受け、校歌にこめられた思いを心に留め、大切に校歌を歌いたいと、改めて思いました。

5月31日(土)には、運動会が行われます。当然、100周年を祝う運動会となります。とはいうものの、特別なことをするわけではありません。本校の目指す子ども像「思いやりのある子」「がんばりぬく子」「深く考える子」にむけて、弱音を吐くことなく、できることを一生懸命に取り組み前進することが、校歌にこめられた思いにつながるものと思っています。ご家庭で子供たちが、学校生活の様子を話すことがあれば、しっかりと受け止めて聞いてあげてください。そして、子供たちのがんばりや努力を認めてあげてください。子供たちが、平野小学校を誇りに思えるよう、私たち教職員は、その支援に力を注ぎたいと思います。

校長 小川 信子